

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園天王町	種別：保育所	
代表者氏名：飯田 このみ	定員（利用人数）： 56名	
所在地：〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町1-30-18		
TEL：045-744-7938	ホームページ：http://www.like-kd.co.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2020年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社		
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員 6名	
専門職員	（専門職の名称） 名 調理員 1名	
	保育士 14名	
	栄養士 2名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	・保育室5・調理室1・事務室1・休憩室1・ロッカー1・トイレ2・園庭	・鉄筋コンクリート6階建て 1階-2階部分・園庭

③ 理念・基本方針

保育理念：「のびやかに育て だいちの芽」
保育方針：みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛(信頼・安定・共感)
・温かいまなざしに見守られ、みつめられ心地良く安定した心
・人を信じ尊重し自分のことも友だちのことも好きといえるみとめ合う心
・ひびきあい 共感しあい喜びと自信をもってたくましく生きていける心
目指す保育園像：・陽だまりのような保育園・地域と共に育つ保育園・子どもと共に輝いて行ける保育園
保育目標：●自然を愛し心身ともにすこやかな子ども ●自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども ●「仲間」と関わり人を思いやれる子ども ●自己を表現できる子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

・保育園周辺には自然を残した公園がたくさんあります。体を動かすことが目的の公園
・色々な形の遊具が楽しめる公園
・季節によって自然の植物や昆虫に出会える公園と外に出て沢山の出会いと経験ができています。
・近隣には大きな商店街があり、そこを通ると色々なお店の方々から子ども達に声をかけて頂いています。なかでも「魚屋さん」との交流は、子ども達に切り身ではない魚本来の姿を見せてくれて名前を教えてくださいました。子どもは、保育園に帰るとすぐに図鑑で調べて「おさかな博士」のように自分たちで興味をもって調べたことを知識として身につけられています。このように子ども達は主体性をもって自ら考え行動する力を身につけることができます。

- ・リトミックを通してリズム遊びをすることで体のリズムを身につけられて生活のリズムもついてきています。
- ・室内の環境としては手作りおもちゃが年齢発達を考慮して常に常備されていて発達段階が上がってくると入れ替えて子ども達の関わりを考慮してコミュニケーションがとれるように考えて構成しています。
- ・子ども達が大好きな本は沢山常設されていて 週に一回の「絵本の貸し出し」は子ども達は毎週楽しみにしていて家庭での親子の会話に役立っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 6月 1日（契約日） ～ 2023年 3月 23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

中長期計画に連動した単年度事業計画に基づいて、適切な園運営および業務を遂行している

事業計画は前年度の事業報告を反映し、園長を中心に主任、栄養士、リーダー保育士の意見の集約・反映のもとで策定されており、中長期計画とも連動した内容となっている。年度末から年度初めにかけて、保護者や職員の意見なども取り入れ、健康・栄養管理面、保護者・地域との関わり、環境問題への取り組み、職員体制、年間行事予定を具体的に策定している。園長から全職員に事業計画を説明し内容理解を促し、毎月、職員会議で実施状況の確認をして計画の進捗状況・達成度合いを把握し、園の健全な運営・経営に取り組んでいる。

豊かな立地条件を活かし子どもの主体性を育てている

子ども達は、園の周辺にある自然豊かな公園に出かけ、体を十分に動す、様々な遊具を楽しむ、探索活動を行うなどして季節を感じながら四季折々の自然物と触れ合う経験をしている。近隣の商店街では、身近な人と挨拶を交わし、店頭には並び多種多様な商品を実際に見て、名前を教えて貰ったりする経験をしている。実生活で体験した生きた知識から興味・関心があったものは、自ら掘り下げて調べるなど、主体的な活動に繋がっている。職員は、子どもの様子から興味・関心を把握し、図鑑を用意したり、表現活動に繋がるような素材などを用意したりして、活動が豊かに展開できるように環境を整えている。

遊びを大切に、子どもたちの豊かな感性を育てている

職員は、子どもが主体的に遊びを楽しむために、玩具は目線に合わせた高さに置く、年齢や発達・興味に合わせたものを用意する、遊びが広がるようにコーナーを作る、定期的に見直しを行うなどの工夫をしている。植物栽培や生き物飼育、自然との触れ合い遊び、図鑑などの絵本に触れる機会なども大切にしている。リズム体操、リトミック、運動遊びを年齢や発達に合わせて取り入れ、体を動かすことの楽しさが味わえるようにしている。様々な活動は、子どもたちの心を育て、バランスの良い発達を促す大切な要素となり、豊かな感性が育てられている。

今後期待される点

コロナ禍、および収束後の保護者対応並びに園運営が課題である

当園は開園して3年、新型コロナウイルス感染症の発生拡大下で開園したため、感染症対策は万全である。また、自然災害や大規模災害に備えて「事業継続計画（BC

P) 」を策定し、食材備蓄品は栄養士が、備品は主任が定期的に確認し有事に備えている。また、子ども・保護者及び職員の安否確認の方法が決められ、「安心伝言板」の連絡ツールなど日頃から定期的に発信練習をし、保護者参加の大規模災害時訓練を毎年実施している。さらに、地元の行政はじめ、消防署、警察、自治会等地域との連携した体制をもって訓練を実施し、災害発生時に職員等が迅速適切な対応ができるようにすることが望まれる。

組織的な保育の専門性の向上に繋げられる取り組みの工夫を期待したい

職員の保育の質の向上は、運営法人が作成している成長支援制度を利用してPDCAサイクルによって行われている。保育所の自己評価は「にじいろ保育」をもとに全員で一年の評価が行われる体制ができている。職員は主体的に保育実践の振り返りを行っているが、現状分析がしっかりできるような工夫を図り、組織的に専門性の向上に繋がる取り組みとなるように期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

コロナ禍が始まる2020年4月に開園させていただき コロナと共に三年目を迎え第三者評価を受審させていただきました。

保護者の皆様には第三者評価調査へのご理解、そして大変お忙しい中アンケートのご協力をいただき心より感謝いたします。

初めての第三者評価受審を通して 自分達が普段行っている保育を全職員で振り返る時間を作る事が出来ました。そして、これからの保育に繋ぐためにはどのようにしていけばよいかと職員全員で考えていく力をつける事が出来ました。職員全体の「保育の質の向上」をもって「子どもの最善の利益」を守る事に繋がるように保育所職員は日々研鑽をしていきます。

最後に 第三者評価機関「ケアシステム」の調査委員の皆様にはきめ細やかに審査していただき保育の質の向上の為に助言をいただきましたこと心より感謝いたします。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり